

福祉・市民体験農園 開設フォーラム2017



・3月7日 **火**

・13:30~17:00
(受付・開場13:10)

・アオーレ長岡
市民交流ホールB・C
(長岡市大手通1-4-10
西棟3階)

※アオーレの駐車場はご利用いただけません
最寄りの公共交通機関をご利用ください。

・参加費無料
(但しお申し込みが必要となります。)

「農福連携について」と 信濃川河川敷での「福祉・市民体験農園」の 参加募集説明会をいたします！

長岡日赤病院近く、信濃川河川敷に開設予定の福祉・市民体験農園は

- ・自分で無農薬有機栽培の野菜を作って食べたい
- ・ストレス解消や趣味として農園芸活動をしたい
- ・農園に集まる人達と交流したい
- ・街の真ん中に位置する河川敷の畑で活動したい



そんな人達が集まる、安心して野菜作りや土と触れ合える環境の市民農園を目指します。
農園の管理は障がい者、生活困窮者、高齢者の方々がいき、その方々がしごと、生き甲斐として関わってほしい、日本初の福祉と市民と農園芸を結びつける「福祉・市民体験農園」として開設します。

説明会はどなたでもご参加頂けます。

説明会に参加できない方で資料ご希望の方もお気軽にお申し付けください。

当日のプログラム、お問合せお申込み等、詳しくは裏面をご覧ください。

皆様のご参加、お問合せお待ちしております。

「福祉・市民体験農園」開設フォーラムプログラム

13:10 開 場

13:30 開会挨拶

13:50 第一部 「農福連携」について ～先駆者によるディスカッション～

NPO法人 日本園芸福祉普及協会 副会長 近藤龍良 氏
関東ブロック障がい者就農促進協議会 会長 新井利昌 氏
特定非営利活動法人 UNE 代表理事 家老洋 氏

先駆者のご紹介

近藤 龍良 氏 (NPO法人日本園芸福祉普及協会 副会長)

愛知県出身。商社勤務後、家族で群馬県倉渕村（現高崎市）に入村、軽度の知的障がいのある長男を中心とした働き場づくりを目指し、花の生産農場を開設。ドイツのシュレーバーガルテン（クラインガルテン）の日本型の開設を村や農水省に提案をして「市民農園法」の制定や普及の協力を行う。また、農業の持つ福祉的機能としての「園芸福祉」の普及に努め、日本園芸福祉普及協会を全国の仲間たちと立ち上げる。

農事組合法人フラワービレッジ倉渕生産組合理事長、NPO法人花の情景研究所代表、障がい者就農促進協議会関東顧問。主な著書「農福連携による障がい者就農」草創社。共著「園芸療法のすすめ」「園芸福祉のすすめ」草創社 など

新井 利昌 氏 (埼玉福興株式会社 代表)

埼玉県出身。「障がいや難病を抱えても、みんながずっと笑顔でいられるための、安心できる拠り所をつくりたい」そんな思いを掲げて埼玉や群馬でグループホームや就労継続支援型事業所を運営する。

1996年 埼玉福興株式会社設立 NPO法人Group Farm知的障がい者生活寮「年代寮」寮長、2004年埼玉県で最初の農業への異業種参入を実現し、同社を農業法人化する。

（公社）全国重度障がい者雇用事業所協会常務理事、関東農政局・関東ブロック障がい者就農促進協議会会長などを務め、また、埼玉県において障がい者雇用推進に積極的に取り組み、農業分野でのソーシャルファームという新たな概念で社会的就労困難者の働く場の環境創出を行う。

家老 洋 氏 (特定非営利活動法人UNE 代表理事)

長岡市出身。農業を通じた国際交流の事業で、ドイツで8年間活動。その後長岡に戻り市議会議員の傍ら、近藤龍良氏と共に園芸福祉活動及び農福連携運動を展開。7年前に特定非営利活動法人UNEを立ち上げ、障がい者、高齢者、生活困窮者の協働を推進し、過疎化・高齢化の進む集落の活性化に取り組む。

15:00 第二部 「福祉・市民 体験農園」の概要について 福祉・市民体験農園検討委員

15:40 第三部 みんなで話そう！ワークショップ

「福祉・市民体験農園」に期待することを参加者でディスカッションします

17:00 閉 会



「ウネハウス」で検索

お申込みお問合せ

〒940-0242

長岡市一之貝869番地（受付：平日9時～16時）

特定非営利活動法人UNE ☎ 0258-86-8121

担当 保科、井口 Fax 0258-86-8131

E-mail : une_aze@yahoo.co.jp

※お申し込みはお電話、FAX、E-mailでお願いいたします。

お電話、E-mailの方はご住所、お名前、ご連絡先をお聞かせください。

F A Xお申込み表

お名前		参加人数	人
ご住所			
お電話番号			資料のみ希望